



信友国際特許

弁理士としてのやりがいを語る角田さん

がんばります

企業が考案した発明の特許出願を代理で行うほか、企業の知的財産を守ることなどを業務とする信友国際特許事務所を渋谷区で経営している。「技術力があつて、特許をうまく使える企業は伸びる」と豊富な経験に裏打ちされた持論を語り、3人の弁理士を含めた35人のスタッフとともに、競争力アップや飛躍を目指す企業を後押しする。

今、仕事に就いて7年余りだ

弁理士

角田 芳末さん(62)

(前橋市出身)

が、その前の30年間は主に国家公務員として特許庁で特許の審査にかかわった。開発された技術が本当に今まで世の中に無く、新たな発明に当たるのか。生きがいを語る。

テレビやファクスといった電子通信分野を専門に担当した。「審査のため、テレビがなぜ映るのか、どうすれば画面が美しくなるのか」ということまで徹底的に勉強した」と振り返る。

54歳の時、特許審査第4部長で退官した。民間事務所のトップに転じた現在は、午前4時に起床して仕事をこなすハードで

多忙な生活だが、「お客様とコミュニケーションし、喜んでもらえる仕事ができると楽しめます」と、役人生活にはなかつた

郷土愛は人一倍。母校の群馬大で講師を務め、知的財産を取り巻く理論、法的環境などを講義するほか、本県での产学研連携推進にも力を入れている。「群馬にもいい技術を持つた中小企業はたくさんある。積極的にアドバイスしていく」と目を輝かせる。

(千葉県松戸市)

関東甲信越ネット

企業の知的財産守る

つのだ・よしすえ 1972年特許庁に入庁。2002年に退官して弁理士に。前橋高一・群馬大工学部・東北大学院修了。